

広がるAIDS文化フォーラム

2022年度 報告書 



AIDS文化フォーラム in 陸前高田

2023 1/28^土

AIDS文化フォーラム in 佐賀

2022 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を断念しました。



Saga

Kyoto

Nagoya

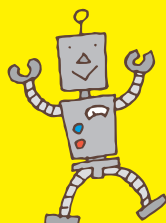
Yokohama

AIDS文化フォーラム in 横浜

8/5^金→7^日

AIDS文化フォーラム in 京都

10/8^土→9^日



AIDS文化フォーラム in 名古屋

12/18^日

AIDS文化フォーラム 広域連携会議

2023 3/5^日



広がるAIDS文化フォーラム2022報告書

目次

AIDS文化フォーラムとは	P1
広がるAIDS文化フォーラム	P2
AIDS文化フォーラムin横浜	P3-4
AIDS文化フォーラムin京都	P5-6
AIDS文化フォーラムin名古屋	P7-8
AIDS文化フォーラムin陸前高田	P9-10

AIDS文化フォーラムとは

◆AIDS文化フォーラムのはじまり

1994年「第10回エイズ国際会議」がフォーラム開催の始まりでした。アジアで初めての国際エイズ会議は、大きな注目を集めました。行政や学会中心の国際会議は参加費が8万円で、とても市民参加できるものではありませんでした。この時、国際会議に並行して草の根の市民版エイズフォーラムをやろうと、多くのボランティア・NGO・専門家たちが、手弁当でAIDS文化フォーラムを立ち上げたのです。そこでは国際会議に集まるリソースパーソンを講演者にしたり、NPOのネットワークを作ったり、HIV陽性者によるパフォーマンスがあったり様々な試みが行われました。行政からの直接的援助は受けられませんでした。会場の提供など後方支援の協力は得られました。それが逆に市民ボランティアによる自立的な成長にもなり、行政と市民の協働による活動のモデルケースにもなっています。

◆“文化”の2文字

なぜAIDS“文化”フォーラムなのか。それはフォーラムを医療や福祉の問題だけではなく、HIV感染者やAIDS患者を病気と共に生きる人間としてとらえること、そしてすべての人間が、HIV/AIDSに関わりを持ちながら、日常生活・社会的活動に関わっているという側面を大切にしたいという考え方で「文化」の2文字を使ったのです。「文化」の2文字を入れたことで、フォーラムの開催プログラムの幅は大きく広がることができました。



広がるAIDS文化フォーラム2022報告書

発行日 2023年3月

発行者 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

編集 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

イラスト もたいひでのり

連絡先 AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

Tel 045-662-3721 E-mail abf@yokohamaymca.org

URL <https://abf-yokohama.org/>

この報告書は公益財団法人エイズ予防財団「令和4年度エイズ予防財団助成事業」の助成を受けて作成しています。

広がるつながるAIDS文化フォーラム

「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず社会を取り巻く状況を多様に文化の視点で考えていく」ことを特徴として、各地域で地域の特徴を生かしたAIDS文化フォーラムを開催してきました。

1994年に横浜で始まったAIDS文化フォーラムの活動は、2011年度の京都初開催へつながったことを皮切りに陸前高田、佐賀、名古屋と、全国へ広がりました。各地のAIDS文化フォーラムはそれぞれが地域特性に沿った独自のフォーラムを創っています。お互いに知恵を出しあう、企画協力しあうことで互いの活動をサポートしています。各地の連携効果を高めるために年に一度、代表者が集い、フォーラムの課題や今後のチャレンジを議論する広域連携ミーティングを開催しています。

今年度は横浜、京都、名古屋、陸前高田でハイブリッドで開催することができ、各地のフォーラムとつながることができました。人と人との交流の大切さを改めて感じたフォーラム、各地の連携のもと、このつながりをさらに強めていきたいと思えます。



AIDS文化フォーラム広域連携会議

◆AIDS文化フォーラム広域連携会議

2023年3月5日、5つの地域の運営委員12名が横浜会場およびオンラインで集いました。各地域から今年度のフォーラム開催報告を行い、それぞれの立場から感じている社会の課題や取り組むべきことについて話し合いました。また、今後の予定についてもお互いに情報交換を行いました。HIV/AIDSをテーマにさまざまな分野で活動している人たちが集まり、つながり、交流する場としてのAIDS文化フォーラムの意義を再確認することができました。

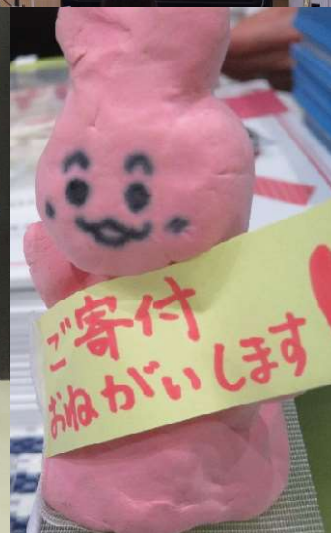


AIDS文化フォーラムin横浜

<https://abf-yokohama.org>

テーマ	文化 ～くりかえされるもの うまれるもの～
日程	2022年8月5日（金）、6日（土）、7日（日）
会場	かながわ県民センター及びオンライン（Zoom、YouTube）※ハイブリッド開催
主催	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会 カトリック横浜教区 社会福祉法人横浜いのちの電話 公益財団法人横浜YMCA ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 湘南・沖縄部
共催	神奈川県
運営	AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
ボランティア	33人
参加人数	のべ3,096人（会場519人、オンライン2,577人）
プログラム数	分科会 23分科会、オンライン活動紹介3団体
プログラム内容	<p>今回のAIDS文化フォーラムは、コロナ禍を経て初めてのハイブリッド開催（会場およびオンライン）となり、テーマ「文化～くりかえされるもの うまれるもの～」のもと、社会が大きく変化していく中で、HIV/AIDSをはじめとする感染症を取り巻く「文化」に着目し、広く社会に向けて発信していくフォーラムとなった。</p> <p>5日に行われた開会式では、佐竹博組織委員長より、「フォーラム開催当初よりHIV/AIDSは医療の問題だけではなく、広く文化の問題として捉えてきた。今だからこそ多様な文化を発信し続けるフォーラムの存在は重要だと考える。日本各地、また海外からもたくさんの方が参加し、いろいろな意見が交わされることを期待している」とのあいさつがあった。続くオープニングでは、高久陽介さん（JaNP+代表理事）、北山翔子さん（「神様がくれたHIV」著者）、長澤勲さん（第1回AIDS文化フォーラムin横浜事務局長）、宮崎豊久さん（インターネット専門家）、岩室紳也さん（フォーラム運営委員）が、「HIV/AIDSと文化～文化とは何か？～」をテーマに意見を交わし、HIV/AIDSは医療や福祉の問題だけではなく、一人ひとりの日常生活、社会活動にも大きく関わっているという側面を大切にしたいというメッセージが伝えられた。</p> <p>6日の「文化としての宗教～宗教とAIDS Part17～」では、鈴木真神父（カトリック山手教会）、ネオさん（日本HIV情報センターボランティア・ムスリム）、古川潤哉さん（浄土真宗本願寺派僧侶）、岩室紳也さん（ヘルスプロモーション推進センター）が登壇し、文化と宗教、日本社会と宗教などについて対話を行った。</p> <p>7日の「性的同意を文化に」では、上智大学エンパワーメントサークルSpeak Up Sophiaのメンバー、宮崎豊久さん（インターネットポリシースペシャリスト）、山田雅子さん（看護教員）、吉永陽子さん（精神科医）、上村茂仁さん（産婦人科医）、岡田百合香さん（泌尿器科医）、岩室紳也さん（フォーラム運営委員）が登壇し、Speak Up Sophiaの活動紹介の他、「性的同意」について様々な視点から議論を行った。</p>
2022年度の特徴・成果	今回のAIDS文化フォーラムはハイブリッド開催（会場およびオンライン）となり、テーマ「文化～くりかえされるもの うまれるもの～」のもと、社会が大きく変化していく中で、HIV/AIDSをはじめとする感染症を取り巻く「文化」に着目し、広く社会に向けて発信していくフォーラムとなった。会場及びオンラインを通して3,000人を超える参加者があった。
2023年度予定	2023年8月4日（金）-8月6日（日）

YOKOHAMA PHOTO LIBRARY



AIDS文化フォーラムin京都

<http://hiv-kyoto.com>

テーマ	もう一度考えようHIV/AIDS ～「つなぐ」「つながる」今、できること～ レッドリボン大作戦
日程	2023年10月8日〔土〕9日〔日〕
会場	龍谷大学深草キャンパス和顔館
主催	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
共催	京都府、京都市
運営	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
ボランティア	65人
参加人数	来場者のべ400人、ライブ・アーカイブ配信視聴 200人
プログラム数	口演14、展示12
プログラム内容	全体会は、大阪公立大学大学院看護学研究科の佐保美奈子先生に、「もう一度考えよう HIV、性感染症、新型コロナ」のご講演を依頼いたしました。その他の口演、展示発表は、共に生きる、予防、文化、薬物、セクシュアリティ、教育、保健・医療・福祉、若者と多岐にわたっていました。
2022年度の特徴・成果	新型コロナウイルス蔓延の影響で、2020年、2021年は、全体会のみWeb開催となっていました。しかし、今回、龍谷大学のご厚意で、3年ぶりに念願の現地開催を行うことができました。開会式・全体会のみ、YouTube配信も行いました。龍谷大学は、とても適切な感染対策の基で講義を行っておられ、AIDS文化フォーラムin京都もその基準を守って、実施いたしました。 全体会は、大阪公立大学大学院看護学研究科の佐保美奈子先生に、「もう一度考えよう HIV、性感染症、新型コロナ」のご講演を依頼いたしました。発表・展示演題の申込数は第9回までの半分以下でしたが、それぞれ、興味深い内容で、各教室30人～60人の参加数があり、密集せずに、発表者、参加者が一体となって、課題を共有できたと思います。やはり現地開催は良いですね。 運営を支えるサポートスタッフとしても、2日間でのべ51名の方にボランティア参加いただきました。例年の準備と片付け、各発表演題の担当だけでなく、終日会場入り口で、有症状者や、濃厚接触の有無の確認を実施くださいました。そして、ほとんどの方から「とても楽しかった」という感想をいただきました。
2023年度予定	2023年秋に開催予定



KYOTO PHOTO LIBRARY



AIDS文化フォーラム in NAGOYA

テーマ	リボンを繋ごう！
日程	2022年12月18日(日)
会場	ウィル愛知 第6会議室
主催	AIDS文化フォーラム in NAGOYA
共催	
運営	AIDS文化フォーラム in NAGOYA
ボランティア	
参加人数	※来場者数30名、ライブ配信視聴100名、アーカイブ配信視聴数450名
プログラム数	3
プログラム内容	<p>①リボンを繋ごう！～シトラスリボン×レッドリボン～ 10:00～12:00 【コーディネーター】 岩室紳也先生（コンドームの達人） 【スピーカー】 前田眞先生（愛媛大学社会連携推進機構教授） 甲斐朋香先生（松山大学法学部准教授）大野聖子先生（AIDS文化フォーラムin京都）辻川真緒さん（IFMSA-Japan SCORA 責任者）有賀裕晃さん（日本薬学生連盟 公衆衛生委員長）ジミー・ハットリくん（秘忍者） 【内容】 AIDS文化フォーラムin名古屋では様々なリボン運動の抱える問題を語り合うことで、共通点を見つけ出し相互に理解を深めることでリボンを繋いできました。今回は新型コロナウイルス感染症によって生まれた差別・偏見に対してアクションを起こしている『シトラスリボン運動』とレッドリボン運動の共通点を様々な立場から語り合いました。</p> <p>②知ることから始めよう～HIV/AIDSとコロナに学ぶ～ 13:00～14:30 【スピーカー】 IFMSA-Japan SCORA 日本薬学生連盟 【内容】 医学生と薬学生の目線からHIV/AIDSとコロナで起きた社会課題の共通点を掘り下げ、発表しました。</p> <p>③はまってけらいん、かだってけらいん ～みんなでリボン運動を語り合おう～ 14:40～16:00 【コーディネーター】 岩室紳也先生（コンドームの達人） 【スピーカー】 前田眞先生（愛媛大学社会連携推進機構教授） 甲斐朋香先生（松山大学法学部准教授）IFMSA-Japan SCORA 日本薬学生連盟 日高橘子さん（保健士） ジミー・ハットリくん（秘忍者） 【内容】 集まって語り合うことの尊さを1日の総括をしながら、会場やオンラインで繋がっている皆さんで共有しました。</p>

2022年度の特
徴・成果

IFMSA-Japan SCORAさんと日本薬学生連盟さんという学生団体が中心となり企画を進めてくれました。
ハイブリッドで開催したことにより、沢山の方に視聴していただくことができました。

2023年度予定 未定

NAGOYA PHOTO LIBRARY



第4回
エイズ
AIDS
文化フォーラム
in NAGOYA

参加無料

2022年12月18日(日)
時間 10:00 ~ 16:00
会場 ウィルあいち 第6会議室

■アクセス
ハイブリッド開催(現地+配信)
地下鉄「市役所」駅 2番出口より徒歩約8分
名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約5分

主催: AIDS文化フォーラムin名古屋運営委員会
後援: 公益財団法人エイズ予防財団

プログラム掲載・視聴申込サイト(<http://healthpromotion.a1a2.jp/files/2022abfn.html>)



AIDS文化フォーラムin陸前高田

フォーラム名	陸前高田市はまかだ交流会（第8回 AIDS文化フォーラム in陸前高田）
テーマ	「はまかだ」でつながり、みんなが元気に！
日程	令和5年1月28日（土）13:00～16:00
会場	陸前高田市民文化会館（奇跡の一本松ホール）
主催	陸前高田市、はまかだ運動推進会議
共催	（協力団体）あすなるホーム、おやこの広場きらりんきっず、三陸アーカイブ減災センター、高田暮舎、トナリノ、りくカフェ、 陸前高田市社会福祉協議会、陸前高田市食生活改善推進員協議会、陸前高田市保健推進員、 陸前高田市まちづくり協働センター 陸高☆なでしこ会、りくmama+、りす整体院
運営	陸前高田市福祉部保健課 保健係、陸前高田市地域包括支援センター
ボランティア	市内外有志10名+保健推進員23名
参加人数	※来場者数：約200名
プログラム数	ステージ発表（講演）：活動発表1、講演1、トークセッション1 展示及び出店ブース：15 その他：エンドロール、シールラリー
プログラム内容	<p>*オープニング</p> <p>「はまかだをすることでお互いが元気になる、健康や幸せを感じられることを目指し、はまかだ運動を推進している。参加者が集い、話すことによって、心地よい時間を過ごしてほしい」と福祉部長挨拶をし、フラサークル一本松の皆様のフラダンスで幕開け。</p> <p>*ステージ第1部</p> <p>介護予防自主グループ活動発表会として、介護予防グループ3か所の活動発表。いきいき百歳体操をきっかけに集まりが始まったが、どのグループも体操だけにとどまらずワークショップやお花見など活動の幅を広げている。集まることで、元気に過ごし、集まれないならこちらから出向こうと行動しており、まさに「はまかだ」ができています。どの団体も今後も継続したいと考えており、前向きな発表が聞かれた。</p> <p>*ステージ第2部</p> <p>こころの健康講演会「心の健康と幸せを感じるためのコミュニケーション」として、岩手大学人文社会学部人間文化課程教授の奥野雅子氏より講演いただいた。幸せとは知覚であり、知覚は「差異」で感じる。そのため、小さな差異を感じられないと幸せも幸せと感じず当たり前になってしまうこともある。人間の脳は問題に向きやすく、うまくいっていることには向かいにくく、昨今のようなコロナ禍など先の見えにくい事態は、メンタルヘルスを悪化させやすい。維持していくための手法として「ネガティブ・ケイパビリティ」と時間経過について説明いただいた。先が見えないことは「待つ」ことが難しいが、すべてのものは変化していく、無常としての時間を捉え、持ちこたえるために現在にこそ集中し、待ち続けることができるとわくわくやドキドキを得ることができる。人間は意味のために生きられるのである。つながりを大切にしておかれた対話を続け意味や価値を見出すことが必要である。</p> <p>*ステージ第3部</p> <p>第8回 AIDS文化フォーラム in陸前高田「AIDSとコロナに学ぶ感染症と人とのつながり」として開催し、ヘルスプロモーション推進センターオフィスいわむろの代表医師岩室紳也氏、陸前高田市はまかだ運動推進アドバイザーの佐々木亮平氏、中京学院大学看護学部看護学科特任教授の日高橘子氏と市保健師蓑島さやか氏によるトークセッションを行った。「できる人ができることを」と動いてきたが、震災、AIDS、近年では新型コロナといった出来事に直面したとき、どうあるべきか。感染症は人と人の間に起きることであるが、人と人との交流を遮断することは、解決策にはならない。正しく知り、正しく予防したり行動することが必要であり、人は経験から学ぶ必要がある。「はまかだ」の中から人の経験を学ぶこともある。また、はまかだする、運動する、良く食べる良く寝るといった行動が人を元気にし、体力があれば、たとえコロナに感染しても軽症で済む。改めて、人との集まりや運動は特に大事であることを確認した。</p> <p>*各ブース内容：15の団体が、展示やワークショップを実施。来場者は1ブースにつき、1シールゲットでき、5枚貯めると記念品をもらえるブースを設置。常時にぎやかに開催された。</p> <p>*エンドロール：日本WHO協会理事長中村安秀氏より総評をいただき、当日の協力団体のメッセージと写真を入れ込んだエンドロールを流し、幕を閉じた。</p>

2022年度の特徴・成果

新型コロナウイルス感染拡大予防により、3年間開催できずにいたが、今年度は、市の介護予防ふりかえり交流会、こころの健康講演会、AIDS文化フォーラムが一つとなり、「はまかだ交流会」という形で開催することができた。

はまかだ運動推進会議の中から多くの協力団体を募ることができ、市主催となっているが、それぞれの意見や思いを形にさせていただき、住民及び各団体みんなで開催することができた。

この結果、東日本大震災の経験から生まれた「はまかだ運動」の大切さの再確認を、新型コロナウイルス感染症拡大で止まっていたこの3年間を振り返りながら、集った協力団体同士だけでなく、参加して下さった市内外の市民と共に行うことができた。

2023年度予定

今年度同様、AIDS文化フォーラム単独ではなく、各講演や事業とともに「はまかだ」という共通目的を持ち、令和6年2月3日（土）開催予定としている。

RIKUZENTAKATA PHOTO LIBRARY





広がるAIDS文化フォーラム

2023年の予定



★ AIDS 文化フォーラム in 佐賀 2023 (未定)

.....

★ AIDS 文化フォーラム in 横浜 2023 **8 / 4** (金) - **6** (日)

.....

★ AIDS 文化フォーラム in 名古屋 2023 **秋頃** (予定)

.....

★ AIDS 文化フォーラム in 京都 2023 **秋頃** (予定)

.....

★ AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 2024 **2 / 3** (土) (予定)